

令和2年度 第1回通常会員総会を開催 令和2年7月8日(水)

～ 令和元年度事業報告・収支決算を承認 ～

「みえモデル」～新型コロナ収束後の反転攻勢に向けた経済対策をテーマに
三重県知事 鈴木 英敬 氏が講演

三重県商工会議所連合会（会長：種橋 潤治）は、令和2年7月8日（水）都シティ津にて、「令和2年度第1回通常会員総会」を開催し、県内12商工会議所の会頭・専務理事等出席のもと、令和元年度事業報告および収支決算等について審議し、満場一致で原案どおり承認されました。

種橋会長は、総会挨拶の中で、「各会議所における新型コロナウイルスへの対応に謝意を述べるとともに、

県に要望して実現した、ネット販売やオンライン就職説明会、マックスバリュ東海の協力により実施されたお土産応援企画等を紹介しました。

会長は新型コロナウイルスに対する思いとして、第2波、第3波は必ず来るということを念頭におき、感染レベルに応じた施策のパターン化が必要であること、今後「新しい生活様式」への移行を先取りし、デジタル・トランスフォーメーションの推進、三密を徹底して避けるための「業種別のガイドライン」に沿った取り組みを見える化し「コロナ対応宣言」を各事業者が掲出し、お客様に安心・安全をPRすることも必要であると述べました。

今回の経験で、生産拠点の一部国内回帰も含めたサプライチェーンの再構築、首都圏を初め大都市一極集中のリスクを解消するための居住地、事業所の移転が必要であり、三重県が選ばれる地域にならなくてはいけない、また、様々な事業者が、コロナを想定したBCP策定を急ぐこと、さらに、今後の観光振興については、県民が一丸となって取り組めるような「三重県キャンペーン」が必要である。

ついては、我々はこうした流れの中で主導的に行動し、中小・小規模事業者の取組への支援、関係機関への提言・要望を行っていかねばならないと述べました。

県連事業も新型コロナの影響で、企画しにくい状況ではあるが、皆様と相談しながら進めていくので、ご理解とご協力をお願いするとともに、こうした時こそ、運営方針として掲げた、常に変化を先取りし、『進取の気概』を持って、みんなで知恵を出し合い、県内会議所の皆様との『連携・協働』を力として、地域の活性化にチャレンジしていきたいと思っております。」と述べました。

総会終了後は、三重県知事 鈴木英敬氏から、テーマ：「みえモデル」～新型コロナ収束後の反転攻勢に向けた経済対策～題して、①コロナ対応の振りかえりと「みえモデル」、②雇用の維持と新しい働き方、③地域経済の再生と進化の3本柱の内容でお話をいただきました。

最後に、7月1日付で三重県雇用経済部長に就任された島上聖司様にご挨拶をいただきました。



▲ 総会の様子、挨拶をする種橋会長（右上）



▲ 講演の様子